

農作物技術情報 第7号 畜 産

発行日 平成20年9月25日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 019-688-5525)

「いわてアグリベンチャーネット」は9月1日からリニューアル！
新しいアドレスは「<http://i-agri.net>」 (過去記事は <http://www.nougyou.kitakami.iwate.jp/agri/>)

注意！

この記事は発行年月日時点の情報のまま公開していますので、記事に於ける記載の法規制・農薬等の規制等については各自の責任においてご確認ください。

飼料作物

トウモロコシの収穫作業が始まりました。圃場・品種ごとに熟期を確認して作業を進めましょう。大雨・台風が来る時期です。大雨等による被害を受けた場合は、事後対策を講じましょう。牧草の刈り取り危険帯の時期に入ります。この時期は刈り取りや施肥を避け、来春の生育にそなえましょう。

1. 大雨事後対策

大雨等の被害を受けた圃場では、下記を参考に事後対策を講じましょう。

- (1) 転作田では、排水溝の点検を行い雨水の速やかな排水を促してください。特に、トウモロコシは湿害に弱いのでしっかり対策してください。
- (2) 倒伏・折損等の被害が著しい場合は早めに刈り取りましょう。
- (3) 収穫調製に際しては圃場の水分が十分に低下してから作業を行います。なお、倒伏したトウモロコシでは収穫作業時にハーベスタ食込み量の変動が大きく、切断刃の損傷やトウモロコシの詰まりを起しやすいため、作業機の運行速度は控えめにし、圃場状態をよく確認します。切断長が粗くなりやすく原料密度が高まりにくいので、十分な踏圧と早期密封をして、発酵品質低下や二次発酵発生を抑制します。
- (4) トウモロコシ茎葉部に土砂の付着が多いと不良発酵の原因となるので、低刈りによる土砂混入に十分留意するほか、収穫作業は極力晴天時に行います。登熟が進んでいない場合には収穫時期を遅らせて土砂の自然落下を待ちます。土砂付着が多い状態で収穫しなければならない場合は、ギ酸などを添加して下さい。
- (5) 収穫後の踏圧作業は十分行き、速やかに密封します。

2. 草地管理 - 牧草の刈り取り危険帯

オーチャードグラス等の寒地型イネ科牧草は、気温が低下し日が短くなる短日条件化では茎葉の成長がしだいに鈍化して、株や根の肥大へと移り、越冬の準備態勢に入ります。

この時期に刈り取ると、来春の生育に悪影響を及ぼしますので注意が必要です。

(1) 危険帯の時期

オーチャードグラスでは、日平均気温が15℃になる日からおよそ40日間が刈り取り危険帯の時期となります。

牧草が休眠に入る時期である日平均気温が5℃以下になるまでに、牧草の地下部に越冬のための貯蔵養分が蓄えられるよう、この時期の牧草の刈り取りは控えましょう。

なお、各地域の刈り取り危険帯の始まり(日平均気温15℃)と終わり(日平均気温5℃)の時期はおおよそ次のとおりとなりますので、参考にしてください。

(下表を見ると、日平均気温15℃と5℃の期間が40日以上ある地点がありますが、牧草が休眠する5℃以下になるまでに牧草地下部に貯蔵養分が蓄えられればよいので、日平均気温が15℃以下になってから40日以上刈り取りを控えればよいこととなります。)

(リアルタイムメッシュ調べ)

	刈り取り危険帯の始まり (日平均気温15℃)	終わり(牧草休眠) (日平均気温5℃)
奥中山	9月24日	11月13日
久慈	10月4日	11月23日
盛岡	10月2日	11月19日
江刺	10月6日	11月17日
一関	10月8日	11月25日

(2) 施肥

刈り取り危険帯の時期に施肥を行うと、牧草は養分の蓄積作業を止め、分けつや成長を始めてしまいますので、この時期は刈り取りだけでなく、施肥も控えてください。

農作物技術情報第8号は10月30日(木)発行の予定です。
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
発行時点での最新情報に基づき作成しております。
発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間
「気をつけて」朝のひと声で 初心忘れず ゆとりの仕事